

RV160 および RV260 ルータの工場出荷時のデフォルト設定におよびリセット リブートする方法

目標

再度ブートするは非常に役に立つツールである場合もあり、最適化されたパフォーマンスのために、定期的にする必要があります。再度ブートするはファームウェアが言語 アップグレードをした後アクティブなイメージをアップデートして必要です。時々コンフィギュレーションを保存して再度ブートするは必要かもしれません。それはルータが正しく動作しないし、接続に関する問題を備えていなければ試みるべき単純な解決方法です。

時々工場出荷時のデフォルト設定へのリセットは同様に非常に有用である場合もあります。ルータが正しく実行されるかもしれなくないソリューションが明らかではない時があり。または多分会社の他の人が使用した設定を削除し、開始する必要がありますルータを受け取り。

この技術情報の目標はリブートする方法を説明し RV160 か RV260 ルータの工場出荷時のデフォルト設定に、リセットです。

適当なデバイス

- RV160
- RV260

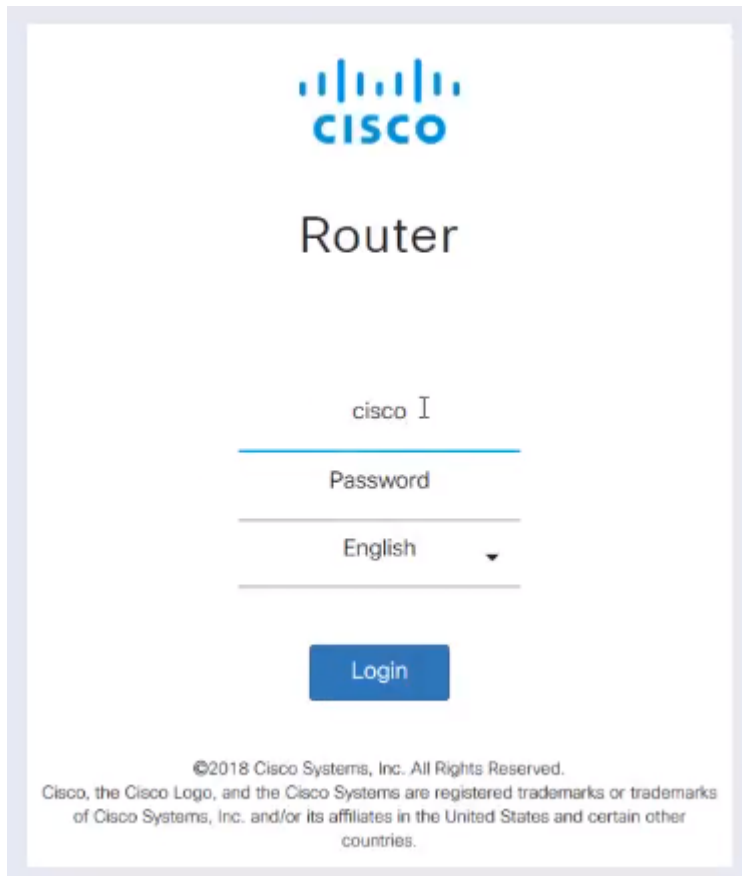
[Software Version]

- 1.0.00.13

ルータへのログイン

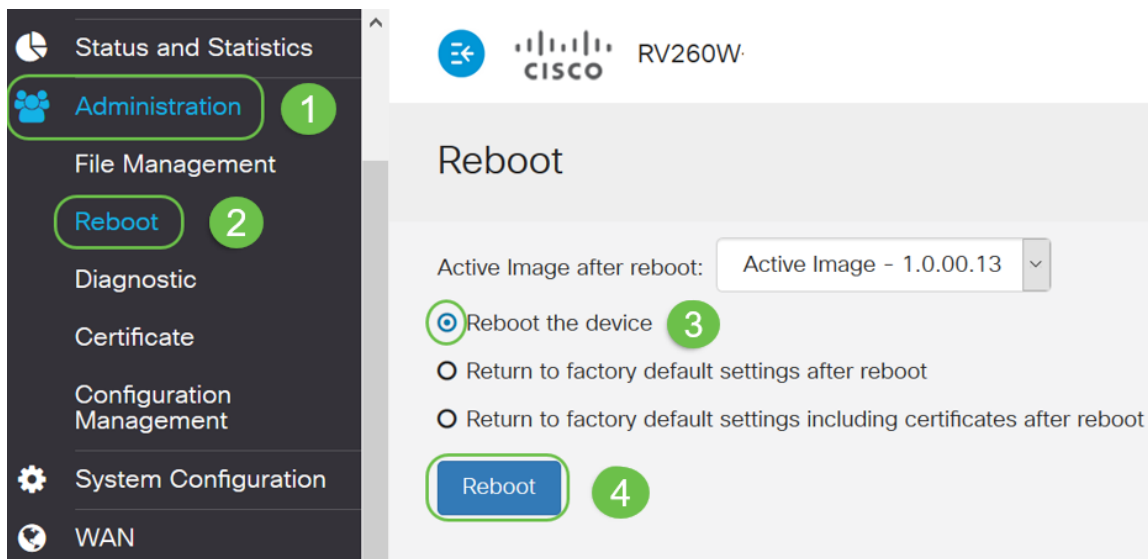
Webブラウザでは、ルータの IP アドレスを入力して下さい。資格情報を入力して下さい。資格情報を入力している時最初にファクトリ リセットをしたか、またはこれがあれば場合、デフォルト IP アドレスは 192.168.1.1 であり、資格情報は両方のための **cisco** ユーザ名 および パスワードです。

注: ルータの IP アドレスにおよび保存する必要がある特定の設定がないことを忘れていたら、物理デバイスの工場出荷時状態にリセットできます。ペーパークリップを開き、小さい引込められた Reset ボタンにその端を挿入して下さい。10 秒の間保持すればデバイスの光がつくのを見るはずで見ます。少なくともバックアップを起動するために数分かかります。IP アドレスは 192.168.1.1 に戻ります。



再度ブートするを行って下さい

Administration > 再度ブートするへのナビゲート。デバイスをリブートするために Radio ボタンを選択して下さい。『Reboot』 をクリックして下さい。完了したために再度ブートするための数分かかります。確認するこの再度ブートするが最新バージョンを実行した後アクティブなイメージをチェックできます。ほとんどの最近のバージョンがある場合 確実ではない場合、[Ciscoサポート](#)に行き、チェックする必要があります。



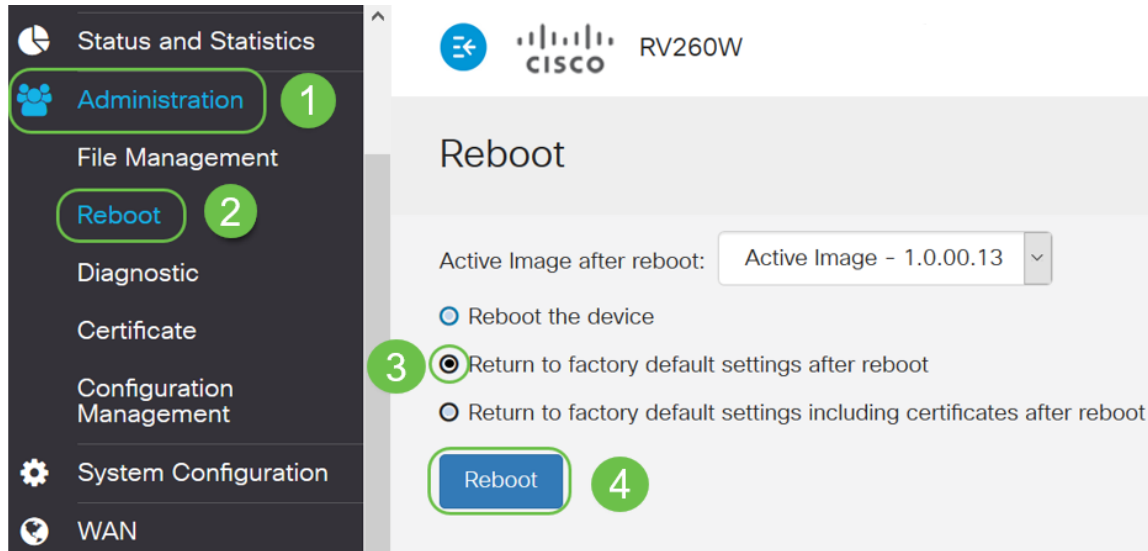
再度ブートするの後に工場出荷時のデフォルト設定に戻って下さい

再度ブートするが実行された後工場出荷時のデフォルト設定への戻りが、すべてのコンフィ

ギューレーションおよび失われるとき設定はデフォルトすることを戻ります。それをバックアップしたいと思う場合もある複雑な設定が留意するためにあるが、設定の誤りは可能性のある問題を引き起こしているものが初めにであるかもしれません。

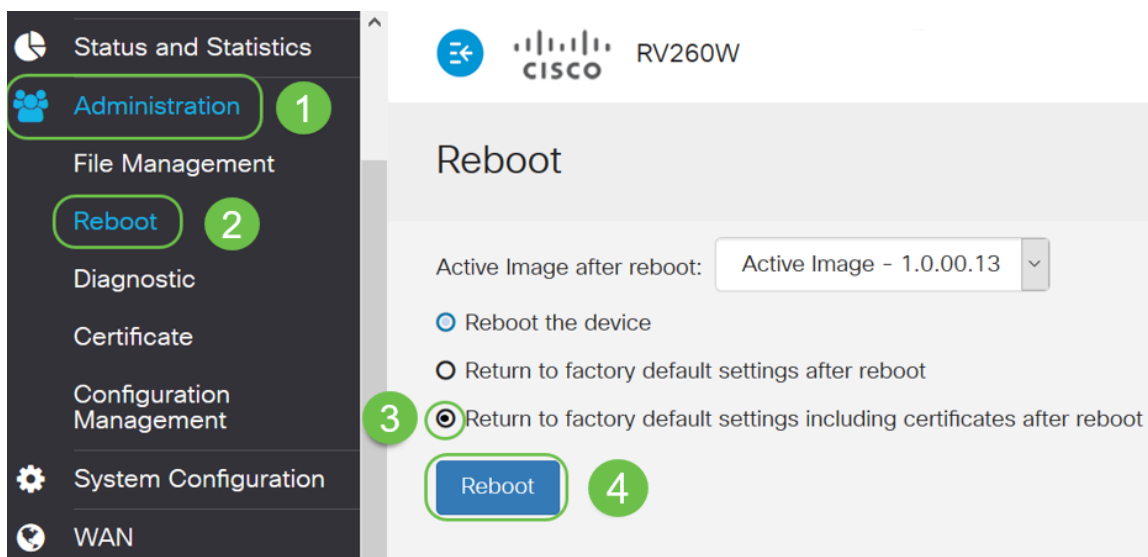
注: デフォルト設定はデバイスを購入するとき一般に もっとも一般的な コンフィギュレーションで、前もって選ばれて来ます。

Administration > 再度ブートするへのナビゲート。 再度ブートするの後に工場出荷時のデフォルト設定に戻るために Radio ボタンを選択して下さい。『Reboot』をクリックして下さい。この操作を行うために数分かかります。



再度ブートするの後に証明書を含む工場出荷時のデフォルト設定に戻して下さい

このアクションは再度ブートするががしましたり、また証明書を取除きます後すべてを工場出荷時のデフォルト設定へのリターン。ルータに接続する期限切れか無効な証明書がある場合これをしたいと思います。



結論

今再度ブートするためのステップを理解し、工場出荷時のデフォルト設定に再度ブートす

るの後に戻り、証明書を含む工場出荷時のデフォルト設定に再度ブートするの後に戻ります。これらの操作が問題を解決しない場合、RV160 か RV260 ルータのトラブルシューティングに関する詳細を[ここ](#)に見つけることができます。